乱立、混戦ぶりの町議選

足寄　定員二十六名に対し　三十九名が立起

方面別の顔ぶれ

市街地区
◆東区　新沼芳雄、松山明
◆西区　久保田庄太郎、我妻茂治
◆南区　加藤伊三郎、斉藤昇
◆北区　影山平
◆中央区　湯浅義雄、嶺和衛、矢野覚一
◆旭町　多田梅松、日裏庄太郎

足寄地区
◆足寄　宮川孫市
◆共励　香川博彦
◆中足寄　大原茂、伊藤義夫
◆稲牛　佐々木政一
◆ラワン　青木収、阿部俊夫
◆上足寄　山内義雄

沿線地区
◆下足寄　斉藤祐一
◆愛冠　神本三也、大野耕太郎
◆駒府　大久保繁、宮口政雄
◆塩幌　細野又市
◆白糸　遠山謙
◆上利別　鳴海一郎、高橋富治、奥泉国雄
◆大誉地　工藤虎男、多田坂栄、王塚義雄

芽登地区
◆中矢　大滝弥助
◆開北　吉田吉之助
▲芽登　福本義輝、大浦政夫
◆喜登牛　加藤甚一、桑尾宏

町村合併後の足寄町の町議選は三十年、三十四年、三十八年の三回おこなわれたが、二十六名の定員にたいして三回とも違ったように三十二名づゝ立起していましたが、今回は七名増の三十九名の立起が決定的で、上記のように町としては未曽有の乱立、混戦ぶり。

このように立起者が多いということは、今期の町議会の在り方にたいする町民からの批判が強いためで、高橋町長にかかわる国道つぶれ地問題などはだれがみてもハツキリとまずい行政処理であることが理解できるのに議会だけはシヤニムニ多数決でまかりとおつている事態―町長以下の三役が違法だとして金を返した超勤手当問題でもこれが正しい決算だとして多数決で裁定してしまう事態―とてもこんなわからず屋の多い議会に町政は任せられない―ダイコウ出でずんばということで、かくも多数の立起者がひしめくことになつたもよう。

そこで立起が決定的な三十九名の人物紹介を兼ねての情勢分析。

上位、当落線上の人々

なんとしても落選者は十三名という落選倍増の町議選挙となつたわけで、二十六議席をめがけて殺到する三十九人のサムライはそれぞれ高点組、当選圏内、当落スレスレに分類されているようで、楽勝、苦戦の情勢はつぎのとおり。

（文中敬称略）

上位グループ　とみられるのは、六百票以上といわれる創価学会からただひとりの宮口政雄、畑中林業、日景木材などをバツクとする影山平、足寄建設業会長の斉藤昇、大原田の市術東区でただ一人公認？の新沼芳雄、町でもつとも古い病院長の我妻茂治選挙上手の中足寄アベツクの伊藤義夫、大原茂、連続六回当選のつわもの多田梅松。

圏内　とみられるのは、加藤伊三郎、湯浅義雄、嶺和衛、宮川孫市、青木収、山内義雄、神本三也、鳴海一郎、王塚義雄、福本義輝。

当落線上　とみられるのは、加藤甚一、桑尾宏、吉田吉之助、大浦政夫、大滝弥助、工藤虎男、多田坂栄、奥泉国雄、高橋富治、遠山謙、細野又市、大久保繁、大野耕太郎、斉藤祐一、阿部俊夫、佐々木政一、香川博彦、日裏庄太郎、矢野覚一、久保田庄太郎、松山明の二十一名。

三十九名で二十九議席を争うので表面的にはさほどの乱立とはみえないが、上位、圏内とみられる十八名を除く二十一名が残りの八議席を争つている形なので三倍近い激戦となつています。

つぎに話題の新人、期待される返り咲き、ガンバル現役陣にライトをあててみましよう。

青年会議から三人

足寄町農村青年会議から前回、神本三也、香川博彦の二名を出馬させ、地区労の推薦をうけて完勝神本は農民同盟青記長にもなり革新農民層の中核として議会活動も活発だが、香川の方はいささか高橋町政に妥協的だつたということで革新陣営で批判の声も出ていたが、二期目に期待をもたれて神本とともに再推薦をうけたもので、連青団長から青年会議議長、農協青年部長、青連協議長を経て町議に、そして農業委員にも選ばれてこれからの活躍を注目されている若い農民代表。

大野耕太郎も青年会議の一員で帯広農業高校を卒業後、町の連青団長と十勝の連青副団長をそれぞれ二期つとめ現在十勝の団長で全道の理事、町の青連協議長、社会教育委員として活躍中で二十六オ

下愛冠をふくめて市街北区の有志から推されての立起なので青年会議の組織からの登場ではないが若い三人の進出は管内でも珍しい存在。

帰りざきを目指し

共産党の矢野覚一は前回隅守町長候補にかかりつ切りで惜敗したのでこんどは徹底に帰り咲き作戦

足寄村議会の副議長だつた影山平は上利別の奥泉国雄に立起をすすめていたところ逆に畑中林業から自らの出馬を求められて決意。

前議会までは連続三期当選で文教厚生委員長で活躍した斉藤昇は弁の立つウルサ型でありながら議場をまとめてゆく貫録があり、道や国を相手の建設事業で多忙の上町の建設業協会長として業界に専心しており、いまさら町議に帰り咲く気もなかつたようだが、あまりにもお粗末な町行政の現状を見るに見兼ねて小林弘道を町長候補に推し出した責任上町政に参画する立場をとらざるを得なかつたようで、議席にあれば目立つた存在となる人。

元西足寄村長、町議二期の嶺和衛ほど常に町長候補に推される人もいないが毎回辞退してきてこのたびもそうだが、それならば町議だけでもと支持層から引き出されるのは、政治的な見通しの明るさと信念の強いことで、公けのことと私情とをハツキリ区別して対処する厳しさをもつていることで、この人が議席にあれば現在までのような無茶な議会ぶりはあり得ないだろうという期待。

現役のベテラン級

一年議員ながら湯浅一郎は裏おもてのない典型的な是々非々のベテラン級の議員に成長し、どうしても欠かせない存在。

すつかり古参議員となつた湯浅義雄は、道農会技師、西足寄農業会常務、同農協参事の経歴が示すようにこと農業問題に関してのベテランで、四期連続当選の間に農業委員長三回、監査委員のほか特別委員長を数多くこなし、現在農業委員会長から連合PTA会長の要職にあつて年中多忙な毎日。

川上前町長の二期も高橋町長の二期にしても議場においての苦手は湯浅といわれるほどに一般質問での長講一席は定評があるが、そのかわりイヤらしく深追いしないでホツとさせるあたり、万年野党ながら健全野党の筋を通してきた議員といえよう。

異色の新人

市街西区の人々から立起をすすめられたものの六十九オになつていまさら町議をと気乗りのしなかつた我妻病院長の我妻茂治も日がたつにつれて、町政の現状を見るに忍びずこのさい三十四年間お世話になつた恩返しにと、医師としての経験を活かして町政に参画しようとのファイトがわき、マイクをもつて街頭にも立つ決意がついたという異色の新人。

上大誉地地区からはじめて立起する王塚義雄は大誉地周辺の既存開拓農民をあげての推薦をうけたそうで、昭和十二年に札幌真駒内種畜場の出身で、西足寄農協の理事、監事から農民同盟の執行委員長もつとめた熱血漢。

小規模草地の開発、農道の拡張整備、肉牛の増殖、地域公民館の設置などをスローガンにしており自らの体験から長期入院患者家庭の保護対策をかかげているのはこの人だけ。

農協組合長の斉藤祐一は下足寄や常盤など近隣六部落の推薦で立起することになつたのは、組合と町との関係からどうしても議席をもつ必要があるからだが、地元の票がすくないのがなやみ。

議員不在のラワン地区の空白をうめようと、すでにはやく出るべき人とみられていた青木収と、林業政策に見識をもつ阿部俊夫の二人がそろつて立起。

とかち新聞社長の松山明が傍聴席から議席への進出をはかつて立起するのは、傍聴席で取材するだけでは発言権はなくアレヨアレヨと眺めているだけであり、新聞紙上でいくら訴えても違法、不当な行政が改められないので、いつそのこと議会へ乗り込んでいつて、これまで主張してきたことを実現させなければとの必要性からの出馬。

とはいつても松山の居住地域は高橋町長の〃〃城下町〃のような形で地元での得票は難しいので全町にわたつて理解ある散票をあつめなければならないので、これまで十二年間にわたつて新聞を通じて町政の民主化と刷新を訴えてきたことがどう票に結びつくかということ。

特に国道つぶれ地問題に関する報道についての町長からの告訴や裁判で四年間一匹おおかみの形でガンバリ通していることにたいして声援の一票があつまるかどうか。

八ミリ・カメラ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り　T420

新製品　絹（きぬ）ごしとうふ
◎美味　◎こわれない　◎煮ても筋が通らぬ
◎くさりにくい　◎したざわりがよい
高本とうふ店
足寄町旭町2区　T505

イリノの刈払機　48,000円
日立の刈払機　44,000円
造林用刃物植付鍬
日本一　北の神印鎌　当麻鎌
マキタ　日立　電動工具
有限会社　鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　電話307番

稲、麦、草刈りはもちろん地ごしらえにも万能機！

春めいた暖かい日和が続いております
春のブラウスが桜の花に先がけて豊富に入荷陳列いたしました
白地春物ウール京呉服の新柄が呉服展示場に展示しました、御高覧下さい
株式会社　前田呉服店
足寄駅前　電話二二番